
研究報告

名前に含まれた情報を社会科学に利用する研究：解説

学習院大学法学部 福元 健太郎
学習院大学計算機センター 久保山 哲二

本稿は、2016年度計算機センター特別研究プロジェクト「名前に含まれた情報を社会科学に利用する研究」について、解説を加えるものである。

1 名前認知による投票

選挙で勝つために必要なものとしてよく言われるものに「三バン」がある。すなわち、地盤（地縁・血縁）、看板（知名度）、鞆（資金）、である。このように、知名度の重要性は、現実政治でよく知られている。政治学でも、候補者名認知が投票に結びつくという研究は古今東西ある。しかし、知名度そのものが得票率を（どれほど）上げるのか、を厳密に調べるのは難しい。というのは、ある政治家の名前が知られているのは、選挙運動の質量、それを支える政治資金の多寡、ひいては政治家としての魅力などに左右されるからである。つまり、候補者名認知そのものではなく、こうした交絡要因が、投票行動の真の要因かもしれない、という可能性を否定しきれないのである。そこで、本研究では、次のような自然実験を用いて、この課題に取り組んだ。

本研究では参議院議員選挙を用いるので、まずその制度から説明する。1947年から1980年までは、全国1区の全国区（定数50）と各都道府県単位の地方区（定数1～4）から成っていた。1983年から1998年までは、全国1区の比例区（拘束名簿式）と各都道府県単位の選挙区が組み合わさっていた（但し後述する理由でこの期間は分析対象から外した）。そして2001年以降は、全国1区の比例区（非拘束名簿式）と各都道府県単位の選挙区（以下、これも「地方区」と呼ぶ）が両立していた。

本研究のデザインを、例を用いて説明する。鈴木一郎が比例区で立候補したとしよう。A県の地方区では鈴木二郎候補がいるが、B県の地方区では鈴木という苗字の候補者がいないとする。すると、A県では、地方区の鈴木二郎候補とその選挙陣営が、名前をひたすら連呼しながら街宣車を走らせるなどして、「鈴木」という苗字を宣伝する。その結果、A県では、地方区の鈴木二郎候補だけでなく、比例区の鈴木一郎候補の名前も浸透し、それ故に得票率が増えると考えられる。これを長期的効果と呼ぼう。さらに、投票はまず地方区から始まる。投票所には候補者のリストが張り出されているので、A県では鈴木二郎という名前を目にすることになる。すると、比例区の順番になった時に、つい先程目にした「鈴木」という苗字につられて、鈴木一郎候補に票を入れる人が少なからずいるのである。これは短

期的効果である。ところがB県では、以上で述べたような長期的効果も短期的効果も働かない。従って、A県ではB県より、鈴木という名前が認知され、比例区の鈴木一郎候補の得票率が高くなる、と考えられる。

A県のように、比例区候補毎に、同姓の地方区候補がいる県を処置県、B県のようにそうでない県を制御県と呼ぶことにしよう。すると、処置県になるか制御県になるかは、ほとんど偶発的な要因によって決まると考えられる。従って、鈴木一郎候補やA県・B県だけでなく、全ての全国区・比例区候補と全ての県を対象として、全国区・比例区候補の得票率を、処置群と制御群で比較すれば、同姓の地方区候補がいるがために名前がよりよく認知されたことによる得票率増加の効果を、バイアスなしで推定できる。但し、候補者によって全国の得票率は大きな違いがあるので、候補者と暦年の交差項を固定効果として制御する。さらに、県ごとによくある苗字もあるので、県と苗字の交差項を固定効果として制御する。また拘束名簿式は、比例区候補個人に対する投票がないので、分析対象としない。

結果は、処置群の方が制御群よりも得票率が約7割高いことがわかった。統計的にも有意である。

なお本研究は三輪洋文准教授との共同研究であり、*Journal of Politics*に採択され、近日中に掲載される予定である。

2 秘書のプロフィール

衆参各議院の議員とその公設秘書（第一、第二、政策）について、秘書と議員の姓が一致する場合は秘書が議員の親族であるとみなす。選挙をまたいで同姓同名の秘書がいれば、同一人物であるとみなす。秘書や議員の名の末字が「子」で終わる場合は、女性であるとみなす。これらについて、時期的な変化、政党による違い、第一秘書・第二秘書・政策秘書の違い、議員が再選された場合とそうでない場合の違い、を分析する。

衆議院議員については1969年から2012年まで、参議院議員については1965年から2013年まで、データ入力を終え、分析を行った。1990年代半ばまで議員の親族である秘書は1割を越えていたが、その後減り始め、2000年代には5%以下になった。女性秘書が多いのは社会党・社民党である。女性議員が多い共産党は、女性秘書は少ない。秘書が再任される場合は、政策秘書→第二秘書→第一秘書という順序で変わることが、逆より多い。また議員が落選した場合に秘書が他の議員に仕える割合は、公明党・共産党といった組織政党、及び民主党で高い。